

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立大詫間小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の定着や生活習慣の見直しに継続して取り組んだ。校内研究においては、一人一台端末を活用した授業改善に取り組むことができた。今後さらに、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善と合わせ、小規模校の良さを生かして個々の児童の理解の程度に応じた丁寧な指導を全職員で共通実践し確かな成果につなげたい。</li> <li>学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、学校行事や各教科の学習の他、キャリア教育など教育活動全般において、児童自身に目標をもたせ、その実現に向けねばり強く取り組ませることで、主体的に学びや表現に向かう意欲や態度を育成したい。</li> <li>会議の精選などの業務改善の他、職員の時間外勤務削減や定時退勤日の定着の取組は、一定の成果が得られている。今後も、働きやすい職場環境づくりの他、時間外勤務の削減に向けた職員一人ひとりの働き方への意識の変化に繋がるような取組を継続したい。</li> </ul>
2 学校教育目標	未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図る。</li> <li>② 夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする児童の育成をめざす。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
重点取組			具体的取組		達成度（評価）		実施結果			
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）	達成度（評価）		実施結果		評価		意見や提言	
●学力の向上	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、意見の交流で考えを構築する授業に取り組む。</li> <li>1人1台端末の効果的な活用を進める。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施したアンケートの結果、話し合う活動について肯定的に答えている児童は、89%だった。</li> <li>「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、意見の交流で考えを構築する授業に取り組んでいると答えた職員は、92%だった。</li> <li>タブレットPCを使い、自分にあった教科や単元など学習内容を選んで取り組む姿が見られるようになった。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童数が少なく、遅れている子どもにアプローチしやすい環境である。</li> <li>学力向上が図れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究主任</li> <li>学力向上対策コーディネーター</li> </ul>
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校生活が楽しい・友達やまわりの人に優しくできる」と回答した児童85%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権集会で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。</li> <li>異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。</li> <li>「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施したアンケートの結果、学校は楽しいと答えた児童は81%、友達や周りの人に優しくしていると答えた児童は92%であった。前回に比べると減少しているが、目標値は達成した。引き続き、「こころの美」の活動や日常の清掃活動や行事での縦割り班活動を通して、他者への思いやりや社会性を育んでいきたい。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事などで来校した時も、地域の方々に子どもたちが思いやりのある姿を見せてくれる。</li> <li>地域ボランティアの読み聞かせをしっかりと聞くことができ、気持ちが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師</li> <li>人権・同和教育担当者</li> <li>各担任</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員95%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、月初め「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書く。</li> <li>各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。</li> <li>「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。</li> <li>いじめの対応についての研修・会議を年2回以上行う。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した保護者は97%であった。2学期の教育相談週間も予定通り実施し子どもの悩みに対して早期対応を行うことができた。今後も、心のカードや教育相談週間(3学期)、子ども支援会議などを通して、教員間で情報共有を行っていく。また、きめ細やかな児童観察と支援に努めていく。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者も9割以上がいじめ防止の対応ができていて答えているので、今の状況でよい。</li> <li>先生たちの目が行き届いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導担当</li> <li>教育相談担当</li> <li>各担任</li> </ul>
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童80%以上とする。 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。</li> <li>各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施したアンケートの結果、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は88%だった。また、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は89%だった。将来の夢につながる活動や、児童が自分の良さを認めてもらえたと感じられる取り組みを続けていく。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の登校の様子を見ている、元気なあいさつができており、明るく前向きに過ごしているようだ。</li> <li>学年でまとまっいて、仲がよいので、それぞれの良さが認められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育担当</li> <li>教務主任</li> <li>各担任</li> </ul>
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童85%以上とする。 ●「安全に関する様々な課題に関心をもち、自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童を、90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝・早起き・朝ご飯」等のアンケート調査や家庭訪問や個人懇談を活用し、児童個々の良好な生活習慣形成に向け、保護者の意識啓発と家庭の教育力向上を図る。</li> <li>各学期実施する「家庭学習ががんばろう週間」に合わせて、「生活習慣」の見直しについて保護者の意識化を図る。</li> <li>教科等横断的なカリキュラムマネジメントに基づく計画的な安全指導を実施する。</li> <li>防災の授業を年5回、避難訓練を年3回(ショートを含む)実践し、事前学習と事後学習の取組を図る。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に2回目の「早寝・早起き・朝ご飯」のチェックを実施した結果、全体の達成率は87.9%であり、生活習慣形成の指導をしていると答えた保護者は92%であった。今後も家庭との連携を続け、良い生活習慣の定着を図っていく。</li> <li>「安全な生活について考え、行動できている」と答えた児童が94%であった。道具での遊び方や室内での過ごし方など今後も継続して指導していく。</li> <li>防災の授業や避難訓練の実施が、児童の防災・安全への意識向上につながっていると回答した教員は100%であった。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気はつらつな子どもが多い。</li> <li>グラウンドゴルフ大会や駅伝大会など、地域の方と一緒にスポーツを楽しむ雰囲気は伝統として続いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務主任</li> <li>生徒指導主任</li> <li>保健担当</li> <li>安全教育担当</li> <li>各担任</li> </ul>
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。業務改善を意識していると回答した教員90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の精選と、資料のデジタル化を確立。ICT活用による校務の効率化を推進する。</li> <li>定時退勤日の設定(金曜日)、出退勤PC横に、平日の退勤目標時刻を予告・表示する。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月アンケートでは、業務改善を意識していると回答した教員が75%であったが、時間外在校等時間については、遵守できている。業務内容の精選や効率化については、さらに推進していく必要がある。引き続き、教員のタイムマネジメント力の向上を図っていきたい。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事にメリハリをつけて早く帰れる時は、帰ってほしい。先生方が疲れている姿を見ると心配だ。子どもたちと明るく過ごせるように業務量の調整を県・市でも行ってほしい。</li> </ul>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
重点取組			具体的取組		達成度（評価）		実施結果			
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	達成度（評価）		実施結果		評価		意見や提言	
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「地域の良さを知ることができた」と回答した児童85%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間や生活科等と関連させ地域での教育力を生かした学習を仕組む。</li> <li>体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、郷土を愛する心を育む。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施したアンケートの結果、地域と連携した学習や行事を肯定的に捉えている児童は平均81%だった。引き続き、地域行事や学校での地域連携の活動を通して地域の良さを伝えていきたい。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在連携している学習だけでなく、さらに新しいことにも地域として力添えをしたい。休日の地域行事は、児童が行きたいと思っても家庭の都合で行けない場合もあるようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間担当</li> <li>生活科担当</li> </ul>
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月子ども支援全体会議の場を活用し、特別支援教育に関する情報共有や自立活動に関する研修等を実施する。</li> <li>個別の指導計画や個別的教育支援計画に基づいた支援方針や配慮事項の共有を図る。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解を深め、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を行うと共に、全校体制で情報を共有しながら教育の充実を図っていると回答した教員が100%であった。職員が特別支援教育に関する研修を積み重ね、更に専門性を高めて児童の支援につながるようにしたい。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>9割以上の保護者が学校の細やかな支援や指導に満足している。子どもたちを見ている、支援が必要な児童に心配りをしていることがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーター</li> <li>特別支援教育担当</li> </ul>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究においては、授業に『話し合いの型』を導入したことで、根拠を示して考えを説明することができる児童が増え、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図ることができた。児童がさらに主体的な学びを進めるために、ICTを活用しながら協同的な学びの実現に向けて全職員で共通実践し確かな成果につなげたい。</li> <li>学校行事や体験活動の中で地域や保護者と連携し、ふるさと「大詫間」を大切に思う心情を育成することができた。次年度も児童が地域の人とふれあったり、豊かな自然や文化について学んだりする中で自らが社会の一員であることを自覚できるようにし、夢や希望をもって心豊かに生きる力を育成していきたい。</li> </ul>
----------------	--